

たより

『美紗の会』

ニュース

第二号

平成四年十月一日発行

発行者
「美紗の会」事務局
☎ 03-3441-2726

会主北米演奏旅行へ

アマースト大学他で

会主の北米演奏旅行の詳細が決まった。
一行は会主の他、現代詩と日本伝統芸能の結びつけを意欲的に試みる藤富保男、会主の同窓で当会には馴染みの西川雅恵で、ニュージャーシー在住で、日本舞踊の紹介に努めている閑崎純女(田野純子)が現地で加わる。

日程は11月11日成田発 12日ー14日・オレゴン州ポートランド、15日ー19日・コネチカット州アマースト、20日ー22日・ニューヨーク、23日帰国の予定。この間、13日にはウィルメット大学で、また17・18日には名門アマースト大学バックレイ・リサイタルホールで演奏、日本芸能文化紹介の集会などがある。

公演の予定プログラムは次の通り。
・長 唄
『娘道成寺』
踊り 西川 雅恵
唄と三弦 西松 布咏
・地唄舞
『袖香炉』
舞 閑崎 純女
唄と三弦 西松 布咏
・端唄
『きりぎりす』
唄と三弦 西松 布咏
・夕暮
唄と三弦 西松 布咏

『詩と三味線』

藤富保男
=日本の伝統の楽器、三味線の演奏によって、現代の詩を文字から解放する試み=

橋場はつえは富本節の浄瑠璃の語りを、石川澤月師より、また地唄を西松文一師よりそれぞれ継承して、現在多くの門下生の指導に当たっている。また藤富保男は西脇順三郎のセミナーで西欧の思潮を受け、同時に北園克衛の評伝を書き、全詩集をまとめた現代詩人である。

橋場はつえは定期的に演奏会を開き、藤富保男は17冊の詩集を持っている。

今回のアメリカ合衆国への共演について、日本舞踊を代表する西川雅恵、また地唄舞いを現地ですでに披露した田野純子の賛助を得ることができた。

また、藤富保男は1989年ハーヴァードで朗詩を行い、その折は現 Amherst大学のJ・ソルト教授のバックアップを借りている。今回も、同教授がこの公演をもちたててくれたりしている。

橋場はつえの音には、エレガントで、ミステリアスな要素――すなわち《ゆかしさ》が備わっている。藤富保男の詩には、ユーモラスで、ウィットに満ちた語り――すなわち《諧謔》がある。

この二人は、すでにNHKの放送その他でコンビを組んで共演したことがあるが、今回再び音と詩――一曲とフレーズが聴衆の一人ひとりの詩の心をゆさぶるだろう。

なお、アメリカ合衆国では西海岸のポートランド、東海岸へ渡ってコネティカット、ニューヨークをめぐる予定。期日は1992年11月11日から23日の間を予定している。

現代詩と音

『真似の真似』
詩 藤富 保男
『公園にかくれる』
詩 西松 布咏

現代詩と形

『酒と椅子』
詩 西松 布咏
『やがて一人』
詩 藤富 保男

魔法の家

詩 藤富 保男
踊り 閑崎 純女

現代詩と形と音

『月』
詩 藤富 保男
踊り 西川 雅恵
唄と唄 西松 布咏

出演者は夫々の分野で伝統を極めその維持と研鑽に努めながら、新しい行き方を探ろうとする意欲的な人々で、これまでにも会主を中心に個別の結合はあったが全部が一堂に会するのは初めてで、その成果が期待される。
なお、今回の公演は大学の日本関係基金で賄われ、一般には無料解放される。
また、ニューヨークでは、当地在住の元当会赤坂教室の高橋剛氏が世話をされ、来春ニューヨークのジャパンスァエティを中心に再度の試みも考えられている。

原稿募集

形式・内容は問いません。何時でも何でもお寄せ下さい。

伊香保に続き日立市でも

会主を励ます会

茨城県日立市に会主のファンクラブ「西松布咏を囲む会」が出来た。
昨年四月、日立シビックセンターで「花の季(とき)」と銘打つ邦楽の公演が行われ、四百名余の愛好者を魅了したが、好評に支えられ今年春にも二度目の公演が催された。
一方昨年夏には、愛好家高濱正明氏、シビックセンターの滝口信氏などを中心に、会主の活動を後援し、邦楽育成に力を貸していかうとする集いが持たれた。

今回は高濱氏達の呼び掛けで、昨年に続く「西松布咏を囲む夕べ」になった。
今回の北米公演は、日本伝統芸能文化の紹介と、その理解を深める目的で、関係機関の寄付と出演者のボランティアに負った形で企画されています。
日頃、会主にお世話になってる弟子共も師匠の活動のお手伝いが出て来ないものかと、話が出ていたが、会長の許しを得て募金をすることにしました。
無理をせず、息長くという会の趣旨からも、夫々の事情に合わせて志をお寄せ頂ければ、先生も喜びになるだろうし、言い出しつべとでも本懐とするところですよ。
皆のささやかな心が先生の活動を潤滑剤になってくれることを祈りつつお願い致します。

北米公演について

募金のお願ひ

八月二十二日、日立製作所

『会瀬(おうせ)クラブ』には、飯山市長初め文化人、愛好者など十四、五人が集り温かい会になった。そこで唄と西松布咏を育てる会を持つことと賛同が得られたのである。

会主の芸を中心に日本伝統芸能を愛で、育もうとするもう一つの試みは、六年前から毎年春、夏、秋の三回、伊香保温泉「さつき亭」の女将石坂ふさ子さんの肝入りで、『伝統芸能と会席の集い』との名のもとに続けられている。こちらは今では昼、夜に百人以上を集める恒例行事になっている。
各地で伝統芸能に対する再認識の動きがあり、愛好者が増えることは喜ばしい。

- 一、募金額
一口 五千円 (何口でも自由)
- 一、送金方法
イ、銀行振込
第一勧銀有楽町支店
加藤多貴子口座
口座番号 1781196
- ロ、現金書留
豊島区駒込1-34-4
クローリア駒込七〇一

送金の際は「西松布咏北米公演賛助金」と記入願います。
平成四年十月一日
発起人代表 本郷 公基

北米公演の舞台について

【解説】

一アマースト大学のことなど

一八二二年創立の歴史を誇るアマースト大学は、コネチカット渓谷を望む九六四エーカー(約百二十万坪)の丘陵地帯にキャンパスを持つ。学生数は一五七〇人で、広大な敷地にもかかわらず、こじんまりとした「小規模大学」といった恵まれた環境を作っている。全学生が親密で、教授陣も近付き易く、牧歌的な雰囲気の中で理想的な生活を謳歌している。

本学の特色は人文社会科学系にあり、哲学、宗教、人類学、黒人文化など幅広い。アメリカ研究、経済学、ロシア語などの学部が傑出しているが、特筆すべきは東洋系講座に日本語と日本文化に関する講座が六つもあり、同志社大学との交換教授、留学制度が定例化している。

「美紗の会」たより第一号を病室で感激しながら読ませて戴きました。私事ながら七月十日左眼が重く感じ、眼科で診察を受けたところ「網膜剥離」との診断で即入院、翌日は手術台の人となりました。以前にも腹痛がひどく我慢しきれず、病院に行きましたら胆石で手遅れ寸

ることである。

安中藩士新島 襄(一八四三—一八九〇)は、アマースト出身ブリッジマンの書いた「連邦誌略」を読み触発され一八六四年二十一歳の時、函館から密航ボストンに渡った。船主ハーディ夫妻の援助を受け、アマースト大学に学んだ後、十年の滞米を経て帰国、一八七五年京都に官許同志社英学校(同志社大学の前身)を開いた。彼は外国の大学で学士号を手にした最初の日本人であると言われる。つまり日本の学士第一号はアマーストで生まれたわけだ、わが国との因縁浅からぬものがある。

一方、ウィルメット大学はオレゴン州都サールム郊外にある。これも創立は一八四二年と歴史が古く、学生数は千五百人

アマーストと同じようである。メソジスト教会系の学部で構成されるが、演劇関係の大学院があることなど特筆されよう。また今回、公演の後盾になるジョン・ソルト教授は一九七二年カルフォルニア大学サンタバーバラ校を卒業。一九八〇年上智大学比較文学部大学院課程で「源氏物語の言語学的研究」、またハーバード大学大学院で井原西鶴「好色一代男の研究」でそれぞれ修士号を、更に一九八九年「北園克衛」(一九〇二—一九七八)詩人、西脇順三郎などとシュールレアリスム詩集『衣裳の太陽』を創刊の

研究で同大学の博士号を得た日本文学研究者の泰斗である。一九八四年ハーバード教授陣に加わり「東アジアの伝統と変革」(日本史)などの講座を担当。現在は現代日本文学講座で「英訳における詩と散文」と題した講義

有難うございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。また浴衣会の節は皆様多数参加して戴き、楽しく会をさせていただきました。初枝も皆様のお力添えで一歩前進させて戴いてお

美紗の会の皆さまへ

橋場てる

んなことになるやら、と反省しております。その節は「美紗の会」よりお見舞いを戴きまして

鯨の話

坂野重生

平目などの活魚を水槽で輸送する場合、鯨(なまず)を数匹混入すると、活魚の鮮度は殆んど低下しないとの有力な説がある。これは活魚が異種魚の鯨の存在を意識して、適度の緊張感を持続するからだそう。某企業では、人事配置にこれを応用して、組織活性化の実に挙げていると言ふ。

S君はさしずめ、わが美紗の会・赤坂教室の鯨と言ふべきか。(なる程、風貌もどことなく似ているようだ……オット失礼)彼の復帰によって、当教室では唄の由来の解説、長唄への新しい挑戦、本を担当している。日本文化の紹介論文、著作、翻訳、また日本の講演も数多く、その分野も文学だけにとどまらず、絵画、音楽などわが国の文学、芸術、芸能全般に亘る。会主一行の北米公演では又とない舞台と後援者を得ていると言えよう。

舞台の仕事でお稽古を變更したり、又々アメリカ公演で御迷惑をおかけします事申し訳なく、どうぞお許し下さいませ。今後共よろしく御指導下さいませ。様お願い申し上げます。(会主母)

紙の発行などなど、われわれのあそびのレベルも一段と高度化しつつあるのは、まことに楽しい限りである。

閑話休題……ご案内のように胡美紗師匠は十一月にアメリカはボストン郊外へ邦楽公演の旅に出られる。唄言葉と三味線の音が紡ぎ出す現実離れした世界に、全く異文化のアメリカー人達がどのようになり込まれていくのか。はてしない興味と少なからぬ不安を覚えないではいられないが、鯨の念力など比ではない師匠の芸のたしかさと、ほど良いお色気が一人芝居的な独特の舞台ムードを高め、きつと彼の地の人々を緊張と魅力のとりこにしてくれるに違いない。

ご一行の草の根の努力が日本への関心と想像力をかき立て、大きな成果

をもたらしことを期待し、あわせて呉々もマイペースで臨まれるよう、心から祈念する次第である。

「邦楽」一口メモ

三味線の一の糸は上駒に乗せず、直接棒に触れる。これを「さわり」という。このため一種の濁音(噪音)が出、上駒に乗っている二の糸、三の糸に共鳴し、独特のビビッた残響を出す。これが三味線の生命であり、有吉佐和子の「一の糸」はこの音に魅せられた女の話である。

銀座でいう「おさわり」は邦楽には関係ない。

「編集雑記」

* 日立市の後援会のことを書いていたら八月二十六日付日経新聞の「交遊抄」が目に付いた。

* 宇宙飛行士ビッチ氏が日立市での国際シンポジウムの講演で、一茶の「露の世は露の世ながら、さりながら」という句を引き、はかない地球・人間に対する愛を訴えたのに飯山市長が驚き感銘を受けたとの文である。
* 一茶も宇宙飛行士に引き合いに出され地中でさぞ驚いていることだろう。
* 先日、佐久間会長が、欧米への日本文化の紹介は大切だ。しかし時として欧米人に阿(おも)ねて伝統を変

に曲げて紹介するケースがあるが、私はその必要はないと思う」と話しておられた。
* 夫々の国の伝統文化は夫々の心を持ち、完成されてきたのだから無理に歪めて紹介しなくとも、真の心は理解される、と言われたのだから。
* 例え世界や時代は違っても、一事を極めた人は、同じ心を持った人々を理解するものだ。

* 会主一行の北米公演が多岐の人に、日本文化の心を理解させるのに役立つことを期待したい。
* そして素晴らしい市長を持つ文化都市日立に、邦楽を愛し、西松布味を後援する集いが出来たことを喜びたい。(た)